





フクシマ

2011年3月11日から変わった暮らし

写真・文 内堀 タケシ





げんぱつじこ ふうしまけんない
原発事故のあと、福島県内の小・中
学校では、ほうしゃせん じゆぎょう
放射線についての授業を
行っています。

ほうしゃせんりょう せんりょうけい
放射線量をはかる線量計という道
具で、じっさいに放射線量をはかりま
した。

きりぼこ そうち
また、霧箱という装置を使い、目に
見えない放射線をかんさつ
観察しました。

ふだん放射線は目に見えず、におい
もありません。うちゅう
宇宙からもふりそそい
で地球にもそんざい
存在し、レントゲン写真な
どにも使われています。

しかし放射線をたいりょう
大量にあびると、人
体に悪いえいさう
影響もあります。

福島県いわき市にある、たらちねクリニックでは、
藤田操先生が超音波を使って子どもの甲状腺の検診を
していました。

「放射性物質による被ばくの影響は、いつ、だれに、
どのように出るのか、わかっていません。

とくに子どもは影響を受けやすいので、これからも
検診をしていくことが大切です」

